

令和元年度 事業報告書

事業年度 平成 31(2019)年 4月 1日～令和 2(2020)年 3月 31日



学校法人 聖マリア学院

St. Mary's Educational Foundation

Fides 【 信仰 】

Spes 【 希望 】

Caritas 【 愛 】

～ 連綿と受け継がれる「カトリックの愛の精神」 ～

聖マリア学院の歴史の源泉は、大正4年、井手内科医院の開設にはじまります。その院長、井手用蔵は熱心なカトリック信者で、貧しく医療に恵まれない人々を長年に亘り支援してきました。

学校法人聖マリア学院の創設者である、初代理事長の井手一郎は、父・用蔵の志を継ぎ、後の本法人設立母体となる、医療法人雪ノ聖母会 聖マリア病院（現・社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院）を開設し、その基本方針を、カトリックの愛の精神に基づく医療と教育の普及としました。

本学院の教育理念が、カトリックの愛の精神に基づく教育研究の実践である所以であり、その精神は、現在に至るまで連綿として受け継がれています。

信 望 愛



目次 ～Contents～

I. 法人の概要

1. 法人の概要
2. 建学の精神
3. 教育理念
4. 沿革
5. 役員・評議員
6. 設置する学校・学部等
7. 入学定員及び学生数
8. 教職員
9. 聖マリアグループ

II. 事業の概要

1. 基本方針
2. 令和元年度に実施した主な事業内容
3. 令和2年度入試結果（令和元年度実施／令和2年4月入学者）
4. 卒業生の主な進路状況
5. 国家試験の合格状況
6. 学年暦

III. 財務の概要

1. 学校法人会計の概要及び企業会計との違い
2. 「資金収支計算書」の概要
3. 「事業活動収支計算書」の概要
4. 「貸借対照表」の概要
5. 有価証券・特定金銭信託の時価情報
6. 主な施設設備の整備状況
7. 主な事業計画履行状況
8. 大科目の経過年度比較表
9. 主な財務比率の経過年度比較表
10. 令和元年度決算総評

I. 法人の概要

1. 法人の概要

法人名	学校法人聖マリア学院 (St. Mary's Educational Foundation)
代表者	理事長 井手 三郎
所在地	〒830-8558 福岡県久留米市津福本町4 2 2 番地
電話番号	0942 (35) 7271
設立年月日	昭和57 (1982) 年11月5日

2. 建学の精神

カトリックの愛の精神

主イエス キリストの限りなき愛のもとに、常に弱い人々のもとに行き、常に弱い人々と共に歩むことです

3. 教育理念

聖マリア学院大学は「カトリックの愛の精神」に基づく教育・研究を行って、豊かな人間性と深い教養を具え、高度の看護知識と技術に基づく科学的な看護実践能力を養い、広く人間社会の健康に寄与できる篤実有能な人材を育成することを目的としています。

4. 沿革

- 昭和 27 (1952) 年 医療法人雪ノ聖母会 設立
 (後の学校法人聖マリア学院設立における母体となる法人)
 (平成 21 年より「社会医療法人雪の聖母会」に法人格変更)
- 昭和 28 (1953) 年 医療法人雪ノ聖母会 聖マリア病院 開設
- 昭和 48 (1973) 年 医療法人雪ノ聖母会
 聖マリア高等看護学院第 2 科看護専門課程 設置
 (後に聖マリア看護専門学校へと改組)
- 昭和 51 (1976) 年 医療法人雪ノ聖母会
 聖マリア高等看護学院第 1 科看護専門課程 設置
 (後に聖マリア看護専門学校へと改組)
 聖マリア高等看護学院を聖マリア看護専門学校と改称
- 昭和 57 (1982) 年 学校法人聖マリア学院 設立
 (聖マリア看護専門学校の設置者を医療法人雪ノ聖母会から移譲)
- 昭和 59 (1984) 年 聖マリア看護専門学校に保健学科、助産学科 設置
 (後に聖マリア学院短期大学へと改組)
- 昭和 61 (1986) 年 聖マリア学院短期大学 看護学科 開学
 (後に聖マリア学院大学へと改組)
- 平成元 (1989) 年 聖マリア学院短期大学に専攻科 (地域看護学専攻・
 助産学専攻) 設置
- 平成 2 (1990) 年 同上地域看護学専攻に国際看護コース 開設
- 平成 7 (1995) 年 聖マリア学院医療福祉専門学校 介護福祉学科 開校
- 平成 18 (2006) 年 聖マリア学院大学 看護学部 開学
- 平成 21 (2009) 年 聖マリア学院短期大学 (看護学科・専攻科) 閉学
 聖マリア学院医療福祉専門学校 介護福祉学科 閉校
- 平成 22 (2010) 年 聖マリア学院大学大学院看護学研究科 開設
- 平成 25 (2013) 年 聖マリア学院大学に専攻科 (助産学専攻) 設置

5. 役員・評議員

令和2年3月31日現在

■理事／定員：6～8名 現員：6名 任期：3年

区分	氏名	選任条項
理事長	井手 三郎 (イデ サブロウ)	理事の互選
理事 (常勤)	井手 三郎 (イデ サブロウ)	学長
理事 (常勤)	井手 信 (イデ ノブ)	評議員
理事 (非常勤)	黒岩 中 (クロイワ アタル)	評議員
理事 (非常勤)	ドーボン・マーゲリーテ	評議員
理事 (非常勤)	牧山 強美 (マキヤマ ツヨミ)	学識経験者
理事 (常勤)	戸塚 幹栄 (トツカ ミキエイ)	学識経験者

■監事／定員：2名又は3名 現員：2名 任期：3年

区分	氏名	選任条項
監事 (非常勤)	山田 隆 (ヤマダ タカシ)	理事会選出候補者のうち 評議員会同意、理事長選任
監事 (非常勤)	永松 雄一郎 (ナガマツ ユウイチロウ)	理事会選出候補者のうち 評議員会同意、理事長選任

■評議員／定員：13～17名 現員：14名 任期：3年

氏名	選任条項
井手 三郎 (イデ サブロウ)	法人職員
石井 和弘 (イシイ カズヒロ)	法人職員
安藤 満代 (アンドウ ミチヨ)	法人職員
井手 悠一郎 (イデ ユウイチロウ)	法人職員
蓑田 ヒロミ (ミノダ ヒロミ)	卒業生
日高 艶子 (ヒダカ ツヤコ)	卒業生
井手 健一郎 (イデ ケンイチロウ)	実習施設職員
橋口 ちどり (ハシグチ チドリ)	実習施設職員
中島 成子 (ナカシマ シゲコ)	実習施設職員
島 弘志 (シマ ヒロジ)	実習施設職員
井手 信 (イデ ノブ)	学識経験者
黒岩 中 (クロイワ アタル)	学識経験者
廣田 良夫 (ヒロタ ヨシオ)	学識経験者
ドーボン・マーグリーテ	学識経験者

6. 設置する学校・学部等

聖マリア学院大学 看護学部／専攻科 助産学専攻
(St. Mary's College)

所在地：福岡県久留米市津福本町422番地

聖マリア学院大学大学院 看護学研究科
(The Graduate School of St. Mary's College)

所在地：福岡県久留米市津福本町422番地

7. 入学定員及び学生数

令和元年5月1日現在

○聖マリア学院大学

学部・学科	年次	入学定員 (収容定員)	編入定員 (収容定員)	入学者数	在籍者数
看護学部 (4年課程)	1	110	***	111	113
	2	(100)	***	***	118
	3	(100)	***	***	105
	4	(100)	***	***	106

合計	収容定員	410	在籍者数	442
----	------	-----	------	-----

○聖マリア学院大学専攻科

学部・学科	年次	入学定員 (収容定員)	編入定員 (収容定員)	入学者数	在籍者数
助産学専攻 (1年課程)	1	15	***	15	15

合計	収容定員	15	在籍者数	15
----	------	----	------	----

○聖マリア学院大学大学院

研究科	年次	入学定員 (収容定員)	編入定員 (収容定員)	入学者数	在籍者数
看護学研究科 (2年課程)	1	12	***	5	5
	2	(12)	***	***	14

合計	収容定員	24	在籍者数	19
----	------	----	------	----

在籍者数合計	-----	476
--------	-------	-----

8. 教職員

令和元年5月1日現在

■教員

	聖マリア学院大学 看護学部	聖マリア学院大学大学院 看護学研究科
教授	13	13（併任）
准教授	5	5（併任）
講師	7	7（併任）
助教	10	0
助手	4	0
合計	39	25（併任）

■職員

	法人本部 事務局	聖マリア学院大学 看護学部
職員	2	17
臨時職員	0	0
合計	2	17

※上記の他、法人本部事務局長が聖マリア学院大学より兼務

9. 聖マリアグループ

○社会医療法人雪の聖母会

聖マリア病院・聖マリアヘルスケアセンター

昭和28年の開設以来、「カトリックの愛の精神」に基づいた保健医療活動を行っており、聖マリアグループの中核を成す法人です。

救命救急センターを中心として、地域に根ざした医療を目指す総合病院として、41診療科、1,097床の聖マリア病院と、回復期リハビリ病棟・療養型病棟、人間ドッグ・内視鏡センター、透析センターの3部門（5診療科）から構成される197床の聖マリアヘルスケアセンターを運営しています。

○公益財団法人福岡県すこやか健康事業団

平成21年4月に、財団法人九州産業衛生協会と福岡県対がん協会が合併し発足しました。

従来、九州産業衛生協会が行ってきた、労働・環境衛生や人間ドックなどに加え、がん検診と予防に関する啓発活動などを行い、人々の健康づくりと福祉の向上への貢献を目指しています。

○社会福祉法人平和の聖母

作業能力を持ちながらも、雇用されることの困難な障がい者の方の社会活動への積極性をお手伝いする障がい者支援施設「ウエルフェア MARIA」、高齢者向けの施設「ケアハウスメゾン MARIA」「デイサービスセンターメゾン MARIA」、認知症により要介護（要支援）となった方の生活施設「グループホームメゾン MARIA」などの運営を行っています。

いずれの施設も、利用者の皆様が安心して快適に過ごせるよう、専門スタッフによるケアを実施しております。

○株式会社サンループ ※令和2年3月をもって廃業

聖 MARIA グループにて蓄積した医療現場での経験と実績を基に、人材派遣・業務請負・紹介予定派遣・人材紹介事業を行っています。

また、医療現場が直面しているさまざまな課題解決のための医療コンサルティングも実施しています。

○特定非営利活動法人 I S A P H (アイサップ)

聖 MARIA 病院の長年にわたる国際協力活動から生まれた N P O 法人です。

それまで聖 MARIA 病院で実施してきた国際協力活動の手法を活かし、新たな活動を展開しております。ラオス（東南アジア）やマラウィ（アフリカ）を中心に、地域保健活動、災害救急医療支援、保健人材育成支援などを行っています。

○学校法人ありあけ国際学園

保健・医療・福祉分野の経営を担う人材を育成することを目的とした「保健医療経営大学」を運営しております。幅広く活躍できる能力が修得できる充実したカリキュラムや、10万㎡（3万坪）という広大な地にゆとりある空間がちりばめられたキャンパスも魅力のひとつです。

○雪の聖母会健康保険組合

聖マリアグループ各法人（一部を除く）に勤務する職員が加入する、健康保険組合です。2,652名（令和2年3月末時点）の加入者を有し、職員同士の相互扶助を目的に、病気やけがをしたときの生活保障となる「保険給付」、日頃の健康増進を目的とした「保健事業」を展開しています。

Ⅱ. 事業の概要

1. 基本方針

大学をはじめとする高等教育機関を取り巻く状況は、主として学齢人口の減少に伴う競争的環境下に置かれ、各機関は教育・研究組織としての経営方針・戦略を明確化し、内外に示していくことが求められております。

教育・研究と、経営・管理の両軸が相互に有機的に機能し、中長期的視野に立ったより実践的な目標の明示と、それを実現する組織的行動、また、効果的な点検・評価体制の確立が必須となっているものです。

このことは、今後、ますます多様化することが予想される学生のニーズに的確に対応するため、各大学等に期待される役割・機能を十分に踏まえた教育や研究の推進を図るとともに、社会との連携を推進しながら、個々の機関が、その個性・特色を一層明確にしていかなければならないことを意味しています。

本学院におきましては、設立理念「カトリックの愛の精神」に基づく教育・研究の実践を堅持、継承し、“student focused education（学生に焦点を当てた教育の実践）”、さらには“enrollment management（入学前～在学中～卒業後の一貫した総合学生支援策等）”を主眼として、中長期事業計画（理事会・評議員会決議）を踏まえた各種事業に取り組んで参りました。

2. 令和元年度に実施した主な事業内容

令和元年度も、本学院が設置する聖マリア学院大学（以下、本学）におきまして、様々な取り組みを実施いたしました。

昨年度から「地域ファースト」を本学の方針として掲げており、グローバルな視点による地域への様々な事業の展開を通して、大学改革を行っております。

それらの事業を実行するにあたっては、学生による多角的な視点が必要であり、また、本学の教育理念にある「豊かな人間性と深い教養を具え」た人材育成を強化すべく、学生の参画を積極的に推進しています。

本年度に実施した事業の多くに学生が参加、活躍しており、「地域ファースト」が順調に浸透しているものと考えております。

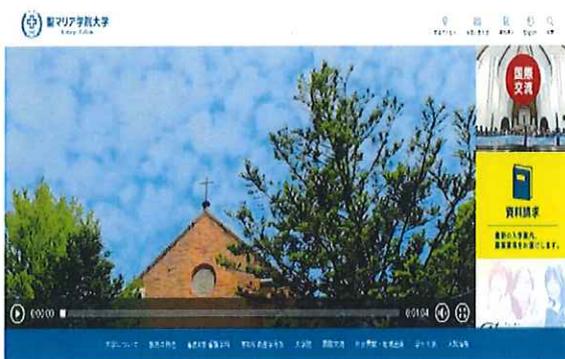
以下に、「経営・管理」、「教育・研究」、「国際交流」及び「地域貢献」を柱組みとして主な事業項目の概要を示します。

① 広報媒体の刷新

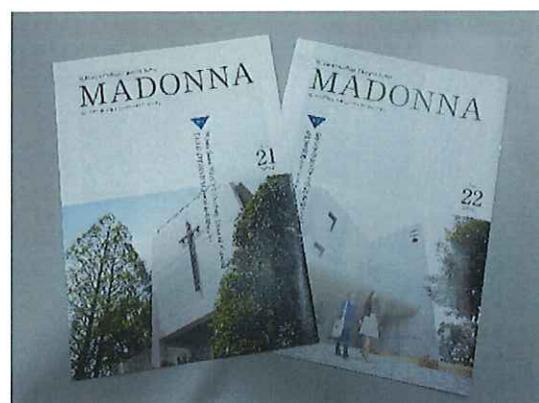
地域社会に向けた本学の広報媒体として、広報誌「MADONNA」、ホームページ、各種SNSを活用しているところですが、本年度はこれらのうち、広報誌「MADONNA」とホームページをリニューアルしました。

広報誌「MADONNA」は、本学の“今”を“リアル”に伝えることを重視するため、学生広報委員を設置し、学生自らが執筆する記事を増やしました。

本学ホームページも、デザインをシンプルにして目的の項目に辿り着きやすくしただけでなく、各コンテンツに学生が多数登場し、講義風景や学生生活を分かりやすく伝えています。



本学ホームページ



広報誌「MADONNA」

②学修支援体制の強化

本学では、学生の主体的・能動的学修姿勢を育成し、学修意欲及び学修理解の向上を図ることを目的に、学修支援室を設置しています。

学修支援室では、単に教員が学生を教育するだけでなく、学修支援ピア・サポーター（学生）を中心とした定例学修会を開催しています。

この体制は「ともべんサポーター」と学生自らが命名し、学生が学生へ学修指導を行う活動を通して、学年枠を超えた“共に勉強する仲間づくり”を行っています。

学内公募した学生29名から開始し一時は100名にもなった「ともべんサポーター」が主導して、放課後などに学内で学修会を開催し、グループに分かれて疑問点やポイントをディスカッションしています。その成果はeポートフォリオで把握しており、学修意欲及び学修理解の向上に努めています。

学修会は学年に関係なく参加できるため、着実に参加者が増えており、参加した学生からは「国家試験の対策になっている」「実習での情報を聞くことができた」という声が出ているだけでなく、教える側の学生からも「人に教えることで自分自身の理解が曖昧な部分がわかった」などといった意見が出ております。

また、学生からの相談を受けることや学修会でのリーダーシップを発揮することにより、社会的対人スキルの向上にもつながっております。

このような形で醸成された本学における学修コミュニティを今後も持続し、永続的に次の世代へ引き継いで行けるよう努めてまいります。



ともべんサポーター

③第三次5カ年計画の総括と第四次5カ年計画（中期計画）の策定

令和元年度は第三次5カ年計画（平成27年度～令和元年度）の最終年度となることから、5カ年の総括を実施し、自己点検評価書として取り纏めました。

また、第三次5カ年計画の総括を踏まえ、第四次5カ年計画（令和2年度～令和6年度）の策定を行いました。

中期計画を確実に実施していくことで、今まで以上に学生や地域社会に求められる大学づくりを推進してまいります。

なお、第三次5カ年計画の総括（自己点検評価報告書）及び第四次5カ年計画については、ホームページに公表しています。

- ・第三次5カ年計画の総括（自己点検評価報告書）

<http://www.st-mary.ac.jp/disclosure/pdf/2020/zikotenken30.pdf>

- ・第四次5カ年計画

http://www.st-mary.ac.jp/disclosure/pdf/2020/chukikeikaku_4th.pdf

④学内施設改修

本年度は大規模な施設改修を2件実施いたしました。

1) 既存ブロック塀の安全対策工事 [事業経費計 8,856千円]

文部科学省による指示の下、本学院に設置しているすべてのブロック塀を対象に専門業者による安全点検を実施。基準を満たさないと判断された箇所（本学院設置施工物ではなく買収地構築物）につき、補強や改修を行いました。

2) 校舎防水工事 [事業経費計 12,744千円]

経年劣化等に伴い、建物内への浸水箇所などが見受けられたことから、2号館・5号館・7号館の防水工事を実施いたしました。



防水工事



ブロック塀工事

⑤学内ネットワーク環境の拡充 [事業経費計 14,990千円]

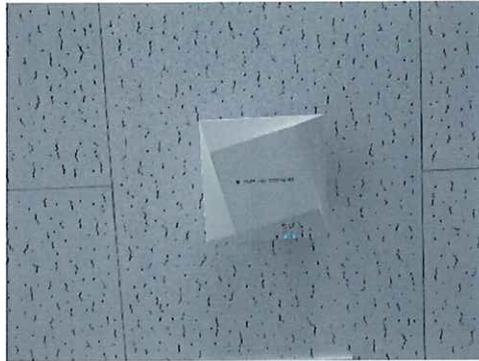
学内のネットワーク設備の老朽化への対策と、今後のアクティブ・ラーニング推進を目的に、学内のネットワーク環境を拡充しました。

今回の事業は単にネットワークの設備を更新するだけでなく、学生からの要

望が多かったW i - F i を全館に設置しました。

本学では既に講義や演習においてL M S (Learning Management System) を活用しているほか、後述の講義録画・配信システムも導入し、将来的には電子教科書の導入も検討しています。

インターネットは現代の学習環境には欠かせないものとなっており、本学でも今回の整備を機に、さらなる効率的な講義・演習の実施に努めてまいります。



学内W i - F i

⑥学修環境の整備

学修環境の更なる充実を図るため、講義教室、演習室、パソコン教室の設備等を整えました。

1) 講義教室[事業経費計 43,159千円]

看護学部1年生及び2年生の主たる講義教室である521教室・522教室のプロジェクターとスクリーンの刷新を図り、講義資料をより大きく鮮明に投影できる環境を整えました。

また、上記教室及び基礎看護学実習室には、講義・演習を録画・配信するシステムを構築し、大学での授業や演習を学内・学外を問わず復習できる環境を整えました。当該システムは、文部科学省の私立学校施設整備費補助金対象事業として採択されました。

2) パソコン教室

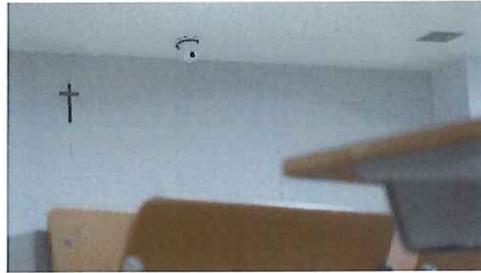
マイクロソフト社のOS「Windows7」のサポート終了にあわせ、パソコン教室(242教室)に設置のパソコン60台を更新しました。

今回は買い替えではなく、既存のパソコンのパーツ(CPU、メモリ、マザーボード)を交換することによりスペックを向上させた後に、OSを「Windows10」へアップグレードする方法を採用しました。

パソコン教室では履修証明プログラムの講義等で統計ソフトを使用することも多く、パソコンのスペック向上を図ることができました。



刷新したスクリーン



講義録画システムのカメラ

⑦図書館における諸活動

平成29年10月に開館した図書館は、開館から2年が経過しました。開館にあたって久留米市在住の皆様（18歳以上）にも利用対象を拡大したことから、地域の皆様のご利用もあり、学内だけでなく地域にも順調に定着しているものと考えております。

本年度は、学生図書委員（ライブラリーアシスタント／LA）による、旧図書館ではできなかった様々な取り組みを行いました。

1) 図書館報の作成

年に2～3回発行している図書館報は、LAが大半の記事を執筆しています。後述の取組の報告やLAが薦める本の紹介など、A5判4ページの中に、学生ならではの個性豊かな記事が並んでいます。

2) 古本市の開催

学院祭において、学生や教職員から集めた古本を販売する活動を行っています。企画から準備、販売までをすべて学生が行い、本年度は12,300円の売り上げがありました。

この売上金は、フィリピンの子どもたちの就学支援のために、本学院カトリックセンターを通じて全額寄付いたしました。

3) 小学生を対象とした学修支援（夏休みの自由研究）

図書館や学生が持つ知識や経験を地域の皆様に還元する活動として、「令和元年度聖マリア学院大学図書館特別企画！～宿題も楽しい夏の思い出に～」を8月に開催しました。

近隣の小学生を対象に、夏休みの宿題に課される「自由研究」のお手伝いを行う活動として、LAの3年生が企画しました。

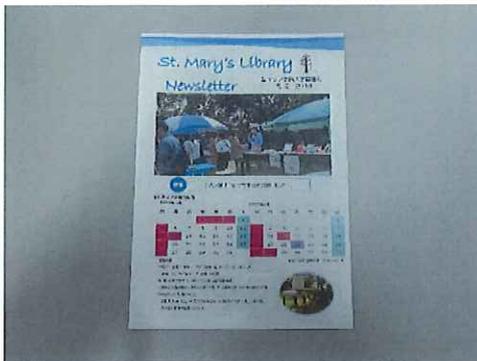
当日は参加した小学生とLAの2～4年生がチームを組み、それぞれが設定した自由研究のテーマに基づく参考図書を一緒に探すなど、充実した活動とな

りました。

4) 本と実践で学ぶBLS（一次救命）体験の実施

BLSといった一般の人でも実施できる技術を広め、誰でも遭遇するかもしれない緊急場面に对应できる基礎的な知識を、少しでも普及させる機会とすることを目的として、学院祭においてLAの4年生が企画・実施いたしました。

当日は、7名の参加者が準備していた人形やパネルを用いて、CPRやAEDの操作を体験しました。



図書館報



古本市



BLS体験

⑧国際交流

本年度も多くの国際交流活動が実施されました。

1) フランシスコ・ボランティアキャンプ

第4回目となるフランシスコ・ボランティアキャンプが、8月5日～8月12日の8日間、韓国・清州のコットンネ（ホームレスの方が生活する社会福祉施設）を拠点に開催され、日本と韓国から70名の学生が参加しました。

本学からは学生5名と教職員3名が参加し、入居されている皆様の身の回りのお手伝いを実施しました。

フランシスコ・ボランティアキャンプは、ボランティア活動を通じて愛と奉仕の精神を学び、ひいてはアジアの平和に貢献することを目的としており、今後も「豊かな人間性」を具えた人材育成の一環として、学生の参加を推奨して参ります。



フランシスコ・ボランティアキャンプ

2) フィールドスタディ

本年度のフィールドスタディは、7月28日～8月8日にフィリピン、9月8日～21日にラオスとタイにおいて実施したほか、本年度は新たに韓国でも実施し、4ヶ国で計10名の学生が参加しました。

フィリピンにおいては、現地の子どもたちへの健康教育、州立病院での分娩室見学実習などを行いました。

韓国では、「韓方医療」の講義受講、コットンネ（ホームレスの方が生活する社会福祉施設）の訪問、本学との姉妹校である釜山カトリック大学校の看護学生との交流などを行いました。

ラオスでは都市部と地方における保健医療の現状についての講義受講、タイでは本学との姉妹校であるセントルイスカレッジや、タイ看護協会を訪問し、現地の看護制度や看護教育の体制について学習しました。



タイ



フィリピン



ラオス



韓国

3) 姉妹校からの実習学生受け入れ

例年実施している姉妹校の実習学生の受け入れを、本年度も実施しました。

従前の釜山カトリック大学校看護大学、韓国カトリック大学校看護大学、仁川カトリック大学校看護大学（いずれも韓国）に加え、本年度から新たにセントルイスカレッジ（タイ）の学生も来日されました。

日本と各国における看護や治療に関する文化の違い、看護師の役割と責任、患者を取り巻く状況や環境の違いについて理解することを目標として、聖マリア病院にて日本研修を行いました。

4) JICA「中央アジア・コーカサス母子保健コース」

独立行政法人国際協力機構（JICA）の“青年研修事業”受託業務につき、本年度は「中央アジア・コーカサス母子保健コース」に採択され、11月7日～21日に12ヶ国・13名の研修員をお迎えしました。

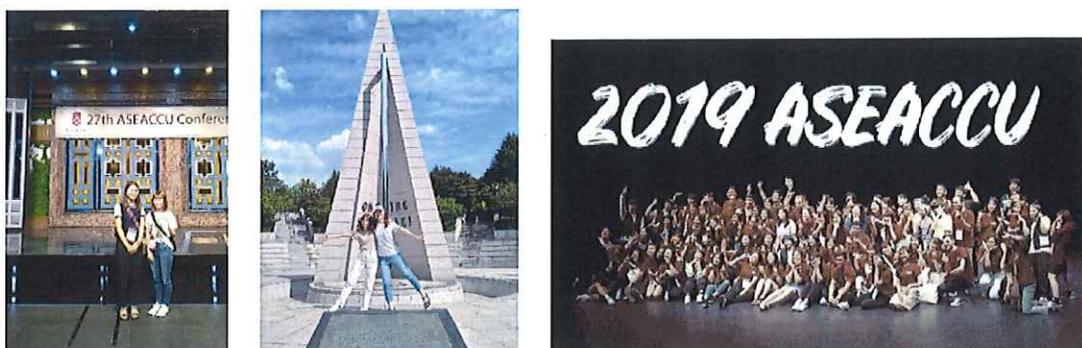
「チーム・ビルディング」手法を用いた問題分析、聖マリア病院総合周産期母子医療センターにおける子育て支援、日本の母子保健制度・施策、災害看護などについての講義を受け、最後にアクションプランの作成・発表が行われました。

また、今回も研修中にナーシングキャリアカフェを実施し、本学学生、教職員との交流の場を設けました。

5) ASEACCU

本学が加盟しているASEACCU（The Association of Southeast and East Asian Catholic Colleges and Universities）の会合が8月に韓国で開催され、本学からは学生2名と教職員2名が参加しました。

今回は「Reconciliation and Situation in the East Asian Region」をテーマに開催され、英語による講義受講、グループディスカッションと発表準備、DMZ（非武装地帯）の見学などを行いました。



ASEACCU

このように多岐にわたる本学の国際交流事業は、今後も本学における諸活動の核として継続してまいります。

⑨まちなか保健室・ほっとステーションマリア

地域貢献の一環として実施している無料健康相談コーナー「まちなか保健室・ほっとステーションマリア」は、平成31年3月をもって10年間実施した久留米市・一番街商店街での活動を終了し、7月から久留米市六ツ門町の「くるめりあ六ツ門」へ活動場所を変え、新たな活動を開始しました。

週に1回の活動となりましたが、引き続き「広く、市民に開かれた健康相談窓口」として、皆様の健康に関するご相談に対応して参ります。

⑩被災地支援（ボランティア派遣等）

東日本大震災の発生から9年目を迎え、今年度は初めて学生を福島県での活動に派遣いたしました。

福島県南相馬市の「カリタス南相馬ベース」を拠点に、学生3名と教職員1名が8月30日～9月5日の間、傾聴ボランティア、地域交流活動などを行いました。

また、岩手県南三陸町への派遣も行い、学生6名が9月3日～9月9日の間、漁業支援活動、子どもの見守り、地域交流活動などを行いました。

これら現地における諸活動は、11月の学院祭において展示形式で報告を行っており、訪れた人へ震災から9年目を迎えた現地の様子、今も必要とされている支援について伝えました。



南相馬にて



南三陸にて

①公開講座の実施

平成20年度から例年開催している公開講座も12年目を迎えました。昨年度に引き続き「地域ファースト」を公開講座においても具現化すべく、「地域とともによりよく生きる」をテーマに5回シリーズで開催しました。

一度しかない生涯を、多様化する社会の中でいかに健康的に過ごしていくか、そして、いつか訪れる最期の時を後悔なく安心して迎えるにはどうすべきか、地域の皆様とともに考える機会としました。



第1回の様子



第4回の様子

令和元年度公開講座実施内容

第1回／「健康寿命を延ばそう！ ～健康づくりの見える化～」

講師：聖マリア学院大学 教授 眞崎直子

第2回／「いのちの旅」

講師：浄水通・茶山カトリック教会協働司祭 李韓雄 師

第3回／「最期の時間を家族と過ごす」

講師：聖マリア学院大学 教授 堤千代

第4回／「障がいのある子どもと笑顔で暮らすために」

講師：聖マリア学院大学 助教 原知子

第5回／「こころの健康と社会」

講師：川崎市精神保健福祉センター 所長 竹島正 氏

⑫外部資金の獲得状況

本学では外部研究資金獲得を全学的に励行しています。本年度も前年度に引き続き、科学研究費を新規獲得しました。

■科学研究費補助金（日本学術振興会）

新規採択分 4件 / 助成金額 2,100,000円(直接経費)

継続分 8件 / 助成金額 3,400,000円(同上)

研究分担金 15件 / 助成金額 1,582,000円(同上)

※前年度からの繰越金は除く

[国庫補助金]

■私立大学等経常費補助金

補助金額 99,012,000円

■私立学校施設整備費補助金

補助金額 13,916,000円

3. 令和2年度入試結果

令和元年度実施分／令和2年4月入学者

○聖マリア学院大学

<看護学部看護学科>

区分	募集人員	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
推薦（系属校）	若干名	2	2	2	2
推薦（指定校）	35名	38	38	38	38
推薦（公募制：前期）		44	44	35	27
推薦（公募制：後期）	5名	16	16	8	5
社会人	若干名	0	0	0	0
学士・短期大学士	若干名	0	0	0	0
一般	54名	137	131	92	36
センター利用（前期）	10名	30	16	8	0
センター利用（後期）	5名	5	4	3	2
合計	110名	272	251	186	110

※推薦（系属校）の募集人員には特待推薦奨学生1名を含む。

<専攻科助産学専攻>

区分	募集人員	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
推薦	10名	13	13	10	10
一般（前期）	5名	9	9	5	4
一般（後期）		—	—	—	—
合計	15名	22	22	15	14

※一般（後期）は定員充足のため実施せず。

○聖マリア学院大学大学院

<看護学研究科>

区分	募集人員	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般（秋期）	12名	0	0	0	0
社会人（秋期）		0	0	0	0
一般（春期）		3	3	2	2
社会人（春期）		4	4	4	4
合計	12名	7	7	6	6

4. 卒業生の主な進路状況

○聖マリア学院大学
 (令和2年3月卒業生)

区分	就職者数	主な進路先
県内病院	55	聖マリア病院・聖マリアヘルスケアセンター、久留米大学病院 など
県外病院	30	佐賀大学医学部附属病院、熊本大学病院、東京女子医科大学病院 など
医療機関外	4	福岡県庁、佐賀県神埼市役所、筑陽学園中学・高等学校
進学	10	聖マリア学院大学専攻科助産学専攻、九州看護福祉大学助産学専攻科

○聖マリア学院大学専攻科助産学専攻
 (令和2年3月修了生)

区分	就職者数	主な進路先
県内病院	7	福岡大学病院、福岡赤十字病院、福岡徳洲会病院
県外病院	7	長崎大学病院、淀川キリスト教病院、日本医科大学病院、愛育病院

○聖マリア学院大学大学院
 (令和元年9月・令和2年3月修了生)

区分	就職者数	主な進路先
—	—	修了生全員が社会人学生のため、該当者なし

※上記はいずれも、新卒者のみの数値である。
 (社会人学生は除く)

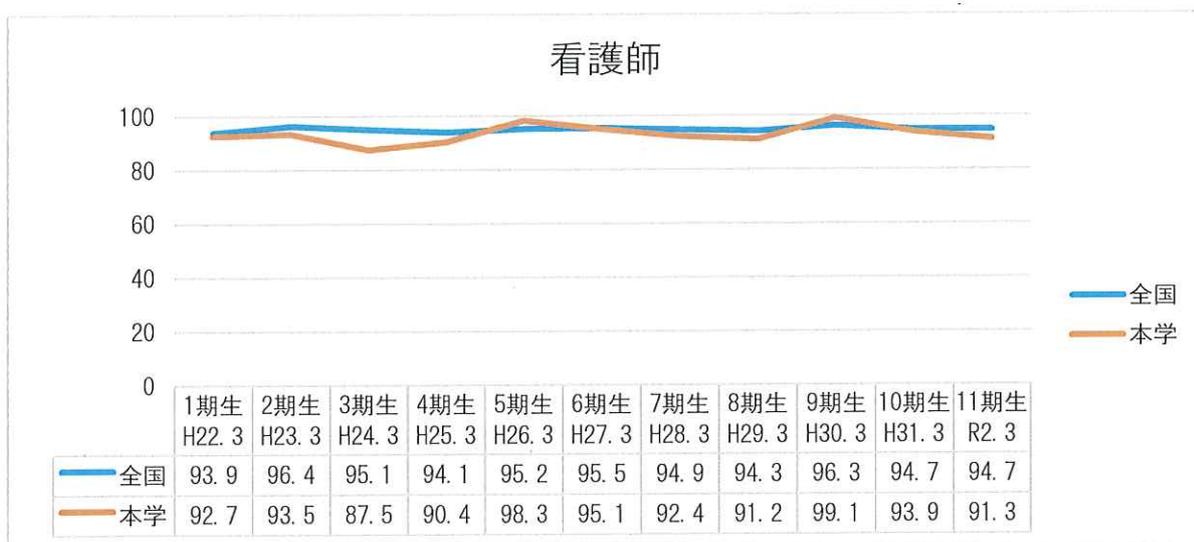
5. 国家試験の合格状況

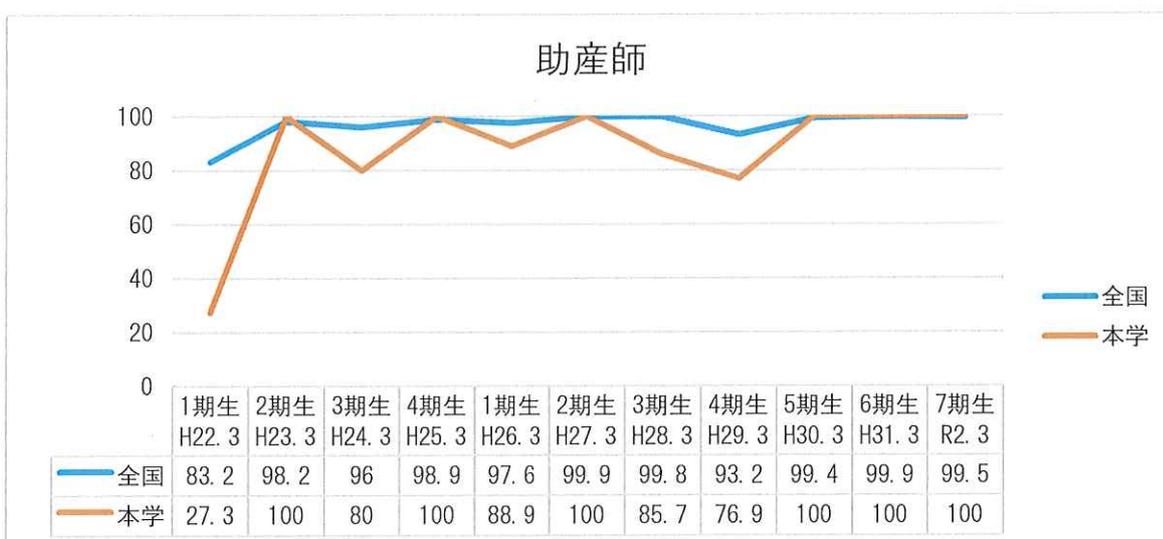
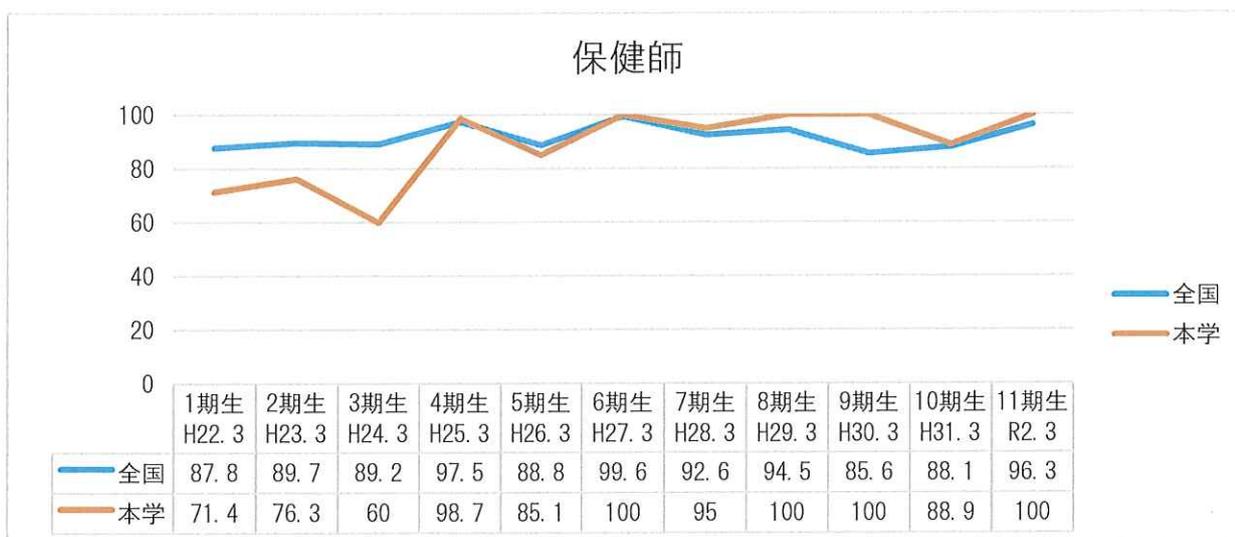
令和2年2月実施

	本学における結果（名）	合格率（％）
	合格者数 / 受験者数	本学 / 全国
看護師	95 / 104	91.3 / 94.7
保健師	18 / 18	100.0 / 96.3
助産師	15 / 15	100.0 / 99.5

※上記はいずれも新卒者のみの数値である。

～合格率の推移～





※上記はいずれも新卒者のみの数値である。

※助産師国家試験は、平成25年3月卒業者以前は看護学部の結果、
平成26年3月修了者以降は専攻科の結果である。

6. 学年暦

4月 1日 (月)	学年はじめ
4月 4日 (木)	平成31年度入学式
4月 5日 (金) ~ 10日 (水)	新年度オリエンテーション
4月11日 (木)	前期開講
4月13日 (土)	健康診断
4月19日 (金)	新入生歓迎行事
7月中旬	前期単位認定試験 (看護学部3年)
7月下旬	前期単位認定試験 (看護学部1・2年)
8月 1日 (木)	夏期休暇開始
8月 9日 (金)	国家試験フェア (看護学部3年)
9月15日 (日)	夏期休暇終了
10月 1日 (火)	後期開講
10月12日 (土)	召命のつどい (看護学部1年)
10月19日 (土)	やすらぎのつどい (看護学部4年)
11月 9日 (土)	学院祭
11月11日 (月)	聖マリア合同慰霊祭
12月 8日 (日)	創立記念日 (無原罪の聖マリアの祭日)
12月19日 (木)	第70回聖マリア医学会研究会
12月25日 (水)	合同クリスマス
12月26日 (木)	冬期休暇開始
1月10日 (金)	冬期休暇終了
1月下旬~2月上旬	後期単位認定試験 (看護学部2年)
2月上旬	後期単位認定試験 (看護学部1年)
3月 7日 (土) (※)	令和元年度学位授与式・修了式
3月中旬 (※)	米国研修旅行

※新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、令和元年度学位授与式・修了式は規模を縮小して実施し、米国研修旅行は中止した。

Ⅲ. 財務の概要

1. 学校法人会計の概要及び企業会計との違い

学校の経営に伴う経理処理については、学校法人会計基準（文部科学省令）により定められており、主要な財務計算書類として「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」及び「貸借対照表」の作成が義務付けられています。

企業の財政構造が、「モノ」を生産・販売することにより投資した資本を回収するとともに利潤を獲得し、獲得した利潤により新たな設備投資や既存の設備の改修が可能となる「生産経済体」であるのに対し、学校法人は、学生が入学することで学納金により収入を確保できる一方、支出が増加した場合、それに見合った収入の増加を図ることが難しい「消費経済体」です。

企業会計の目的が営利目的の事業活動の成果と財政状態を利害関係者に開示するところにあるのに対し、学校法人会計は財政面から学校経営における教育研究活動の健全性を測定し、開示することを目的としています。

	学校法人会計	企業会計
事業の目的	教育研究活動	利潤獲得のための経済活動
財務諸表 (計算書類)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資金収支計算書 ・ 活動区分資金収支計算書 ・ 事業活動収支計算書 ・ 貸借対照表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャッシュフロー計算書 ・ 損益計算書 ・ 貸借対照表

以下に、各計算書の概要を記し、令和元(2019)年度における本法人決算につきご報告します。

2. 「資金収支計算書」の概要

当該会計年度の諸活動に対する全ての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金（現金預金）の収入及び支出のてん末を明らかにするものです。

また、内訳表と併せ会計基準改正により新たに「活動区分資金収支計算書」を添付することになりましたが、これは企業会計でいえば「キャッシュ・フロー計算書」に相当するものになります。

主な収入（科目説明）

学生納付金収入（学生からの授業料・入学金等収入）	：	769,730 千円
補助金収入（国等からの助成金）	：	112,928 千円
前受金収入（翌年度に入学予定の学生からの入学金、授業料等）	：	137,577 千円

収入の部合計 ： 3,146,823 千円

主な支出（科目説明）

人件費支出（教職員に支払われる給与・賞与）	：	566,331 千円
教育研究経費支出（学生の学習支援、課外活動費、教育研究活動費等）	：	169,462 千円
管理経費支出（法人運営に係る費用、学生募集活動費用等）	：	67,809 千円
設備関係支出（教育研究用の機器備品、管理用の機器備品、図書等を 取得するための費用）	：	63,526 千円
資産運用支出（将来を見据え資金を積立・運用するための支出等）	：	128,800 千円

支出の部合計 ： 3,146,823 千円

資金収支計算書

(単位；円)

資金収入の部		資金支出の部	
科 目	01 年度決算額	科 目	01 年度決算額
学生納付金収入	769,730,000	人件費支出	566,331,229
手数料収入	10,711,680	教育研究経費支出	169,462,434
寄付金収入	39,100,000	管理経費支出	67,809,081
補助金収入	112,928,000	施設関係支出	32,319,472
資産売却収入	0	設備関係支出	63,526,091
付随事業・収益事業収入	7,404,000	資産運用支出	128,800,000
受取利息・配当金収入	5,032,087	その他の支出	34,303,785
雑収入	26,182,338		
前受金収入	137,577,000		
その他の収入	33,369,294	[予備費]	-----
資金収入調整勘定	△ 176,978,425	資金支出調整勘定	△ 32,876,978
前年度繰越支払資金	2,181,766,913	翌年度繰越支払資金	2,117,147,773
収入合計	3,146,822,887	支出合計	3,146,822,887

3. 「事業活動収支計算書」の概要

当該会計年度の活動に対する事業活動収入と事業活動支出の内容及び基本金組入後の均衡の状態を明らかにし、固定資産の経過的価値の減少（減価償却額）や将来的な負債を考慮した計算書で、学校法人の財政的な経営状況を表すものです。企業会計の「損益計算書（P/L）」に相当します。

主な収入（科目説明）

寄付金	（学校法人への寄付による収入・事業活動収入の部には現物による寄付も含まれる）	：	39,100 千円
付随事業収入	（学生寮に係る寮費納付金の収入や受託事業の収入）	：	7,404 千円
基本金組入額	（当該年度に取得した施設・設備等の額及び将来に向けて積み立てる額等）	：	△115,207 千円
事業活動収入の部合計		：	975,080 千円

主な支出（科目説明）

減価償却費	（既存の建物・土地・備品等の固定資産に係る償却費用）	：	130,936 千円
資産処分差額	（保有資産の除却に係る期末簿価を計上）	：	2,034 千円
事業活動支出の部合計		：	942,400 千円
基本金組入前当年度収支差額		：	32,680 千円
当年度収支差額		：	△82,527 千円

事業活動収支計算書

(単位：円)

収入の部		支出の部	
科 目	01 年度決算額	科 目	01 年度決算額
教育活動収入	953, 116, 732	教育活動支出	940, 366, 009
教育活動外収入	5, 032, 087	教育活動外支出	0
特別収入	16, 930, 887	特別支出	2, 033, 550
		[予備費]	0
事業活動収入	975, 079, 706	事業活動支出	942, 399, 559
		基本金組入前当年度収支差額	32, 680, 147
		基本金組入額合計	△115, 206, 661
		当年度収支差額	△82, 526, 514
		前年度繰越収支差額	△229, 551, 952
		翌年度繰越収支差額	△312, 078, 466

4. 「貸借対照表」の概要

当該会計年度末の財務状況（運用形態と調達源泉）を明らかにし、財政状態の健全性を表すものです。

企業会計でいえば「貸借対照表（B/S）」に相当します。

固定資産（校地、校舎等建物、及び備品、図書等）	:	4,386,112 千円
流動資産（現金及び預貯金等）	:	2,146,268 千円
固定負債（退職給与引当金）	:	225,938 千円
流動負債（未払金、前受金等）	:	183,887 千円
基本金の部合計（財政的な基盤を示す額、将来への資金）	:	6,434,633 千円
繰越収支差額（資産から負債と基本金を差引いた額）	:	△312,078 千円

貸借対照表

令和2年3月31日 現在

(単位；円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	4,386,112,337	4,298,444,832	87,667,505
流動資産	2,146,267,567	2,193,702,725	△47,435,158
資産の部合計	6,532,379,904	6,492,147,557	40,232,347

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	225,937,808	220,110,652	5,827,156
流動負債	183,887,460	182,162,416	1,725,044
負債の部合計	409,825,268	402,273,068	7,552,200

純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	6,121,433,102	6,026,226,441	95,206,661
第2号基本金	140,000,000	120,000,000	20,000,000
第3号基本金	101,200,000	101,200,000	0
第4号基本金	72,000,000	72,000,000	0
繰越収支差額	△312,078,466	△229,551,952	△82,526,514
純資産の部合計	6,122,554,636	6,089,874,489	32,680,147
負債及び純資産の部合計	6,532,379,904	6,492,147,557	40,232,347

5. 有価証券の時価情報

(単位：円)

種 類	当年度(令和2年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表 計上額を超えるもの	0	0	0
(うち満期保有目的の債券)	(0)	(0)	(0)
時価が貸借対照表 計上額を超えないもの	401,200,000	351,618,205	△49,581,795
(うち満期保有目的の金銭信託)	(200,000,000)	(185,420,000)	(△14,580,000)
合 計	401,200,000	351,618,205	△49,581,795
(うち満期保有目的の債券・金銭信託)	(200,000,000)	(185,420,000)	(△14,580,000)
時価のない有価証券等	—		
有価証券 合計	401,200,000		

6. 主な施設設備の整備状況

会計区分	内容	金額
建 物	学内ネットワーク、2号館防水工事 他	23,463 千円
構 築 物	図書館ブロック塀工事、寮ブロック塀工事	8,856 千円
教育研究用機器備品	講義収録システム一式、サーバー 他 【 97 点】	57,836 千円
管理用機器備品	ノートパソコン 他 【 18 点】	3,409 千円
図 書	研究用、図書館用、製本雑誌 【3,017 冊】	2,281 千円

7. 主な事業計画の履行状況

事業計画内容	予算措置(千円)	達成度状況
建学の精神の具現化への諸活動	1,000	◎
基本金組入れ(校地取得計画)	20,000	◎
学長のリーダーシップによる大学改革の推進<学長経費>	8,000	○
学内施設における安全対策方策	17,000	◎
学内ネットワーク環境整備	15,000	◎
アクティブ・ラーニングに係る教育基盤システム整備	20,000	△
I C Tを活用した学修支援システム構築	45,000	◎
継続的な学修支援活動の推進(リディアル教育等)	1,500	○
被災地支援に係る諸活動の継続	1,200	◎
青少年育成および国際保健医療協力に係る寄付活動	1,400	◎
大学院生教育研究助成金	2,000	△
実習体制の充実	1,500	◎

達成度状況 … 予算執行 (95%以上) / ◎

予算概ね執行(80%以上) / ○

執行未了など(80%未満) / △

8. 大科目の経過年度比較表 —平成27年度～令和01年度—

資金収支計算書

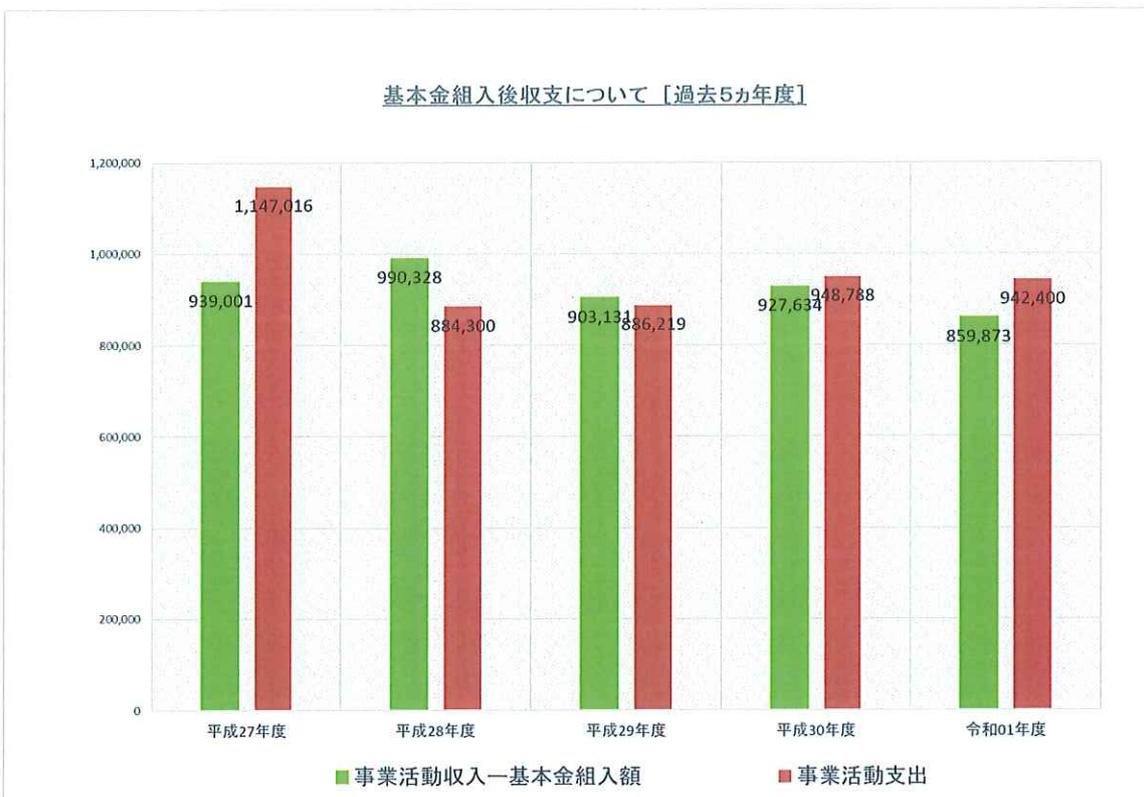
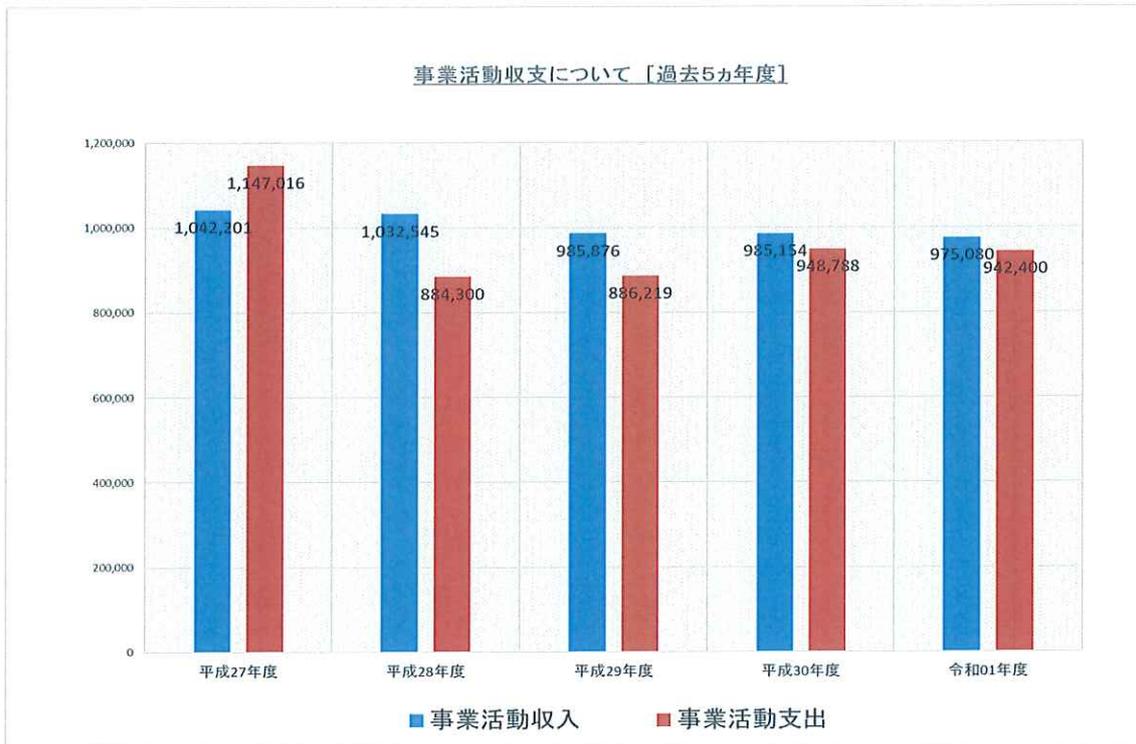
(単位；千円)

収入の部	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 01 年度
学生納付金収入	815,499	798,911	785,139	784,380	769,730
手数料収入	12,923	11,900	11,097	11,500	10,712
寄付金収入	31,219	30,200	33,395	31,230	39,100
補助金収入	97,706	113,768	96,010	120,563	112,928
資産売却収入	0	0	0	100,000	0
付随事業・収益事業収入	26,004	30,366	21,557	8,052	7,404
受取利息・配当金収入	6,094	6,437	4,554	3,939	5,032
雑収入	47,467	35,336	33,072	22,730	26,182
前受金収入	140,265	136,636	143,461	141,739	137,577
その他の収入	128,010	245,393	431,908	22,351	33,369
資金収入調整勘定	△184,381	△171,897	△158,224	△163,739	△176,978
前年度繰越支払資金	1,590,019	1,588,271	1,903,697	2,057,809	2,181,767
収入の部合計	2,710,825	3,025,322	3,305,666	3,140,555	3,146,823

支出の部	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 1 年度
人件費支出	558,915	529,788	520,720	547,531	566,331
教育研究経費支出	264,065	179,028	184,247	172,461	169,462
管理経費支出	73,787	68,564	65,855	69,525	67,809
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	92,981	211,059	408,358	0	32,319
設備関係支出	7,711	8,679	54,687	35,162	63,526
資産運用支出	124,800	122,100	25,200	128,000	128,800
その他の支出	31,904	31,609	29,203	40,413	34,305
予備費	—	—	—	—	—
資金支出調整勘定	△31,609	△29,203	△40,413	△34,304	△32,877
翌年度繰越支払資金	1,588,271	1,903,697	2,057,809	2,181,767	2,117,148
支出の部合計	2,710,825	3,025,322	3,305,666	3,140,555	3,146,823

事業活動収支計算書

(単位：千円)							
教育活動収支	事業活動収入の部	科目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和01年度
		学生納付金	815,499	798,912	785,139	784,380	769,730
		手数料	12,923	11,900	11,097	11,500	10,712
		寄付金	32,515	30,200	33,395	31,230	39,100
		経常費等補助金	97,706	113,768	96,010	120,563	99,012
		付随事業収入	26,004	30,366	21,557	8,052	7,404
		雑収入	51,460	39,999	33,072	23,492	27,159
	教育活動収入計	1,036,107	1,025,145	980,270	979,217	953,117	
	事業活動支出の部	科目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和01年度
		人件費	571,182	535,891	521,303	578,206	572,158
教育研究経費		352,356	262,073	278,834	281,431	280,758	
管理経費		90,604	85,573	85,228	88,755	87,450	
徴収不能額等		0	0	0	0	0	
教育活動支出計		1,014,142	883,537	885,365	948,392	940,366	
教育活動収支差額	21,965	141,608	94,905	30,825	12,751		
(単位：千円)							
教育活動外収支	事業活動収入の部	科目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和01年度
		受取利息・配当金	6,094	6,437	4,554	3,939	5,032
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	6,094	6,437	4,554	3,939	5,032	
	事業活動支出の部	科目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和01年度
		借入金等利息	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額	6,094	6,437	4,554	3,939	5,032	
	経常収支差額	28,059	148,045	99,459	34,764	17,783	
特別収支	事業活動収入の部	科目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和01年度
		資産売却差額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	0	963	1,052	1,998	16,931
	特別収入計	0	963	1,052	1,998	16,931	
	事業活動支出の部	科目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和01年度
		資産処分差額	132,874	763	854	396	2,034
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		特別支出計	132,874	763	854	396	2,034
	特別収支差額	△ 132,874	200	198	1,602	14,897	
	〔予備費〕	0	0	0	0	0	
基本金組入前当年度収支差額	△ 104,815	148,245	99,657	36,366	32,680		
基本金組入額合計	△ 103,200	△ 42,217	△ 82,745	△ 57,520	△ 115,207		
当年度収支差額	△ 208,015	106,028	16,912	△ 21,154	△ 82,527		
前年度繰越収支差額	△ 483,682	△ 331,339	△ 225,310	△ 225,311	△ 229,552		
基本金取崩額	360,359	0	0	0	0		
翌年度繰越収支差額	△ 331,338	△ 225,311	△ 208,398	△ 246,465	△ 312,079		
(参考)							
事業活動収入計	1,042,201	1,032,545	985,876	985,154	975,080		
事業活動支出計	1,147,016	884,300	886,219	948,788	942,400		



※単位：千円

貸借対照表

(単位:千円)

資産の部	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 1 年度
固定資産	4,350,887	4,393,936	4,266,319	4,298,445	4,386,112
流動資産	1,819,508	1,925,163	2,168,840	2,193,703	2,146,268
資産の部合計	6,170,395	6,319,099	6,435,159	6,492,148	6,532,380

負債の部	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 1 年度
固定負債	182,751	188,853	189,436	220,111	225,938
流動負債	182,040	176,395	192,215	182,162	183,887
負債の部合計	364,791	365,249	381,651	402,273	409,825

純資産の部	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 1 年度
基本金	6,136,943	6,179,161	6,261,906	6,319,426	6,434,633
第 1 号基本金	5,310,743	5,525,961	5,988,706	6,026,226	6,121,433
第 2 号基本金	660,000	480,000	100,000	120,000	140,000
第 3 号基本金	101,200	101,200	101,200	101,200	101,200
第 4 号基本金	65,000	72,000	72,000	72,000	72,000
繰越収支差額	△331,339	△225,310	△208,398	△229,552	△312,078
翌年度繰越収支差額	△331,339	△225,310	△208,398	△229,552	△312,078
純資産の部合計	5,805,604	5,953,851	6,053,508	6,089,874	6,122,555
負債及び純資産の部合計	6,170,395	6,319,099	6,435,159	6,492,148	6,532,380

9. 主な財務比率の経過年度比較表

比率	算式(×100)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和01年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	54.8%	51.9%	52.9%	58.8%	59.7%
★						
教育研究費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	33.8%	25.4%	28.3%	28.6%	29.3%
☆						
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	8.7%	8.3%	8.7%	9.0%	9.1%
★						
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	-10.1%	14.4%	10.1%	3.7%	3.4%
☆						
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	122.2%	89.3%	98.1%	102.3%	109.6%
★						
学生納付金比率	$\frac{\text{学生納付金}}{\text{経常収入}}$	78.2%	77.4%	79.7%	79.8%	80.3%

寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	3.1%	2.9%	3.4%	3.2%	4.0%
☆						
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	9.4%	11.0%	9.7%	12.2%	10.2%
☆						
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	9.9%	4.1%	8.4%	5.8%	11.8%
☆						
☆; 高い値が良い						
★; 低い値が良い						
***; どちらともいえない						

10. 令和元年度決算総評

本年度における事業活動収入計は、975,079,706円となりました。収入の内訳としては、授業料、入学金等の「学生納付金収入」が769,730,000円と約8割を占め、ついで「補助金収入」が99,012,000円と約1割となっております。

支出につきましては、「人件費」が572,158,385円、「教育研究経費」280,758,127円及び「管理経費」87,449,497円などを主なものとして、事業活動支出計が、942,399,559円となっております。

その結果、「基本金組入前当年度収支差額」が32,680,147円となり、令和元年度単年度として収入超過（黒字）となりました。

特記事項としまして、本年度に導入したICT学修支援システムが補助金対象事業に採択され、私立学校施設整備費補助金経常費補助金として13,916,000円を獲得したことが挙げられます。また、支出につきましては、上記システムの配備、学内ネットワークの拡充、ブロック塀の補修や防水工事など、施設設備の整備を重点的に実施しました。

さらなる学修環境の充実に向け、今後も堅実な財政計画とその適正な執行管理により、安定的な収支状況を確保し、財政基盤の健全化に施策的に取り組んでまいります。

学校法人聖マリア学院

聖マリア学院大学 看護学部／専攻科助産学専攻
聖マリア学院大学大学院 看護学研究科

〒830-8558

福岡県久留米市津福本町4-2-2番地

TEL 0942-35-7271 (代表)

FAX 0942-34-9125

<http://www.st-mary.ac.jp/>